

【居宅介護】

若年認知症の方に対応するため、介護支援専門員として必要な知識や技術とはどのようなものだとお考えですか。

1	・面接技法 ・各施設、事業所の資質の把握と統一ケア、ネットワークの構築
2	認知症に関する医学的知識、面接技術
3	まずは病気の理解、そして本人や家族を多角的に支えられるマネジメント力が必要だと思う。 医師との連携とインフォーマルな支援を含めたサービスの紹介、精神的なケアも重視し、これまでとこれからの活動レベルを視野に入れてプランニングする事。 また、どの方でも共通して言えることですが、研修等でスキルアップの場を常に持てるようにし、ネットワークづくりに励むことも大切な事であると考えます
4	“若年認知症”と特別視する必要はない。どの方もその人を中心にした視点が必要なことだと思う。その人の生きてきた姿・その人自身を大切にという視点が必要なことだと思う。
6	各疾患の事例をイメージしての理解と対応困難なケースが多いのでサービス事業所や医療機関との連携の知識技術が必要と思います。特にできるだけ利用者・家族に負担をかけず“楽になった”と実感できる受け皿(サービス・相談先)の情報を豊富に持っていることが肝心と思います。 また対応するスタッフに知識のないことが多いので、処遇方法を提案したりスタッフ向けの教育(若年の)の機会もあればと思います。
7	病気として認知症の方の行動を理解する。認知症の方の思いを引き出す技術。
9	若年認知症の症状及び進行の仕方を十分理解し、問題が起こる前起こった時に対応や相談ができるよう相談の窓口(ネットワーク制度等)を知っている事が大切。
11	介護保険のサービスを利用して生活を維持しておられる方の事例が少ないので、適切な知識や技術を向上させていく機会がありません。今後増えつつある若年人の方の症状に応じた専門的な注意点等を指導して頂ける機関があればよいと思います。
12	専門家のサポートは勿論、かかわるスタッフの精神的なサポートが不可欠。病気を受け入れてもらい、適切なサポートにより前向きな気持ちを導き出し積極的な生活を送ってもらえる事ができたらと思います。経済的な不安、子供の養育など将来の不安が大きくなります。その都度家族に対する適切なアドバイス等ができる様、情報・知識が不可欠となります。今後、研修会の開催、情報提供などをどんどんしてほしいと思います。
13	同じ悩みを持つ家族とふれあうことが重要と考えています。家族会の中心で活躍されている家族とネットワークを持つておくことが重要である。
18	権利擁護、成年後見、病気・症状に対する知識、虐待への対応
20	若年認知症と指摘された場合、必然的に職を失う場合が多い。経済的にも苦しくなり家庭崩壊につながる恐れがある。社会的支援が必要になってくるのでは。 介護支援専門員は高い専門性を求められると思われる。家族へのカウンセラー的対応が必要と思われる。
21	信頼関係はどの方達にも不可欠なものですが、向き合う姿勢が大切かと思われます。
22	認知症の正しい理解はもちろんのこと、専門機関への相談をしようと思ってもどうしてよいのか分からないというのが本当のところ。もっと色々な制度や機関、ネットワークについて知っておく必要があると思います。
24	・病気そのものの理解をしっかりとする。 ・本人の行動、思いを理解し、そしてそれに合った対応をする。 ・家族のストレスの除去法
25	本人の生活課題(ニーズ)からサービスにつなげるにしても、家族の理解が得られない場合が多い。家族の教育・理解促進が必要と思う。(「まだ夫は(妻は)若いからそんなところ(デイサービス等)に行きたくないだろう」と言われる) 私たちケアマネジャーには知識・技術は必要だが家族の頑固さを変えられる話術はない。地域住民の

【居宅介護】

若年認知症の方に対応するため、介護支援専門員として必要な知識や技術とはどのようなものだとお考えですか。

	<p>理解も薄く日本全体で考えてもらわなくては改善していかない。</p> <p>10年前と比べずいぶん理解してこられたように思いますが、まだまだ“隠したい”“さらし者にしたくない”など家族による“抱え込み”の壁を乗り越えることができない。どれだけ市やソーシャルワーカーと協力していても結局はケアマネに全て覆いかぶさりになる。もうそろそろ保健事業も頑張ってください。</p>
27	<p>若年認知症を正しく理解し、家族や本人に適切な支援ができるよう研修会等で自己研鑽していききたい。</p>
28	<p>働き盛りのときに認知症になられ、診断告知されてその事実を受け止めることがいかに困難であるか、ご本人ご家族の混乱や心の中の葛藤をくみとり、深く理解し傾聴し一緒に考えていくことが必要と思います。</p> <p>また認知症ケアの知識(早期発見、対応の仕方など)とご本人同士のネットワーク、ご家族同士のネットワークなど当事者同士の交流を図れる場がどこにあるかなどの知識も必要と思います。地域内で行われているサービスの情報を知ることやご本人の望まれている事(保険の内外)に対しての働きかけができる力が必要と思います。</p>
29	<p>認知症ケアの知識とプロセスの実際方法。コミュニケーション技術等身体的・行動的サインとその対応方法</p>
30	<ul style="list-style-type: none"> ・家族への支援 ・センター方式の活用で継続的なマネジメントをしていく事 ・若年認知症に対する知識 ・コミュニケーション能力 ・利用できる介護サービス機関の把握 ・プライドや思いを持っておられるので傷つけない対応と理解力 ・認知症自体の理解が出来ていないケアマネジャーも多く、ケアプラン作成やアセスメントの研修も重要だが、認知症実務者研修のようなものをケアマネジャー向けに実施すべきである。
31	<p>若年認知症には病名、症状が多種多様にあり、脳血管疾患や精神疾患を合併している事も多い。この為、多様なケースがあることを認識し、たくさんの知識・情報を把握する事が必要だと考える。</p>
32	<p>認知症そのものに対する専門的な知識はもちろん研鑽を積んでいくことが必要。若年の認知症のある人の生活全般を支えていくために社会資源や地域や各機関とのネットワークを構築するための知識や学びが必要と考える。家族に対する支援も支える側に対する支援体制もどのようなものがあるのか、どうしたら利用できるのか、関わりを持つ人全てが気軽に連携を持てるようなシステムづくりが必要と考える。</p>
36	<p>若年者として認知症であっても要介護者としてとらえていません。あくまでも障害者としての対応が必要であると考え、就労や子供を含む家族全体への生活支援として取り組み、ソーシャルワークとしての知識や手法を必要とするので、そのための研修を受けたり、学習をしてゆきたいと思います。</p>
38	<ul style="list-style-type: none"> ・早期発見・早期治療が大切 ・認知症専門医療機関の相談を促す。その上で関係機関(医療、保険、介護)との連携をはかる。
40	<p>脳のどこの部位から発症し、どんな症状が表れるのか正しい情報を得て、ケアをチームで正しく連携して関わりを持つことが必要。</p>
41	<p>認知症の知識、脳のはたらき・治療対応やケアなどの一般論とその人の健康のレベル。生活歴など。</p>
42	<p>何が元で認知症になられたのか、またこの先どういう形で進行していくのかは本や研修を受けることで知識としては身につくでしょうが、実際に本人と接するためにご家族に認知症への対応の仕方をよく理解していただくためには、ケアマネ自身がたくさんのケースを経験することが必要でしょう。</p> <p>認知症の介護はご家族の理解とその大変さを知ってくれる人が側に存在するというのがポイントのひとつだと思います。そのためにもまず介護者をケアマネが受け入れ、介護者が安定した心で利用者を受け入れ、介護者が安心した心で利用者を受け入れる。</p>

【居宅介護】

若年認知症の方に対応するため、介護支援専門員として必要な知識や技術とはどのようなものだとお考えですか。

43	若年認知症への理解、フォーマル、インフォーマルなサービス機関の発掘。
45	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患の理解 ・本人の理解(その人にとって大切なこと、望むことを知る等)、家族の相談・サポートの方法。本人・家族が専門機関へ受診するようなすすめ方 ・本人の状態に合った適切なサービスの選び方
46	疾患別個別ケアの技術の習得。周辺症状に対するケアについて
47	研修機会を得ながら専門的な知識を得ることが優先
48	研修
49	認知症介護を介護者に指導・説明できる技量の取得
50	働き盛りの方もおられると思うので、残された家族への支援策が必要。
51	平成 18 年度滋賀県介護支援専門員認知症研修会に参加させて頂き、12 月 12 日修了証を頂きました。この研修会でよい勉強をしました。また他の介護支援専門員と交流もでき、有意義な時間をすごす事ができました。このような研修会は大変重要だと感じました。
52	<ul style="list-style-type: none"> ・対応経験のある方からの体験談 ・行き詰まった時の相談への展開に関する技術UPの勉強 ・専門職からの指導を受けたい(一年間通じて定期的に！)
54	聴く姿勢、根気、学習
55	かかわりが始まりでその蓄積が知識や技術となっていくので、経過の記録と分析が重要と思う。
56	若年認知症の方に対する勉強不足だと自分自身思っている。このままの自分では支援する自信がない。必要な知識を研修なりで教えてほしい。
57	認知症を理解し、本人の思いに添った対応が必要だと思うが、まだまだ理解が足りないので勉強が必要だと思います。
58	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患の理解と各々に応じた相談援助技術 ・家族への対応の仕方の指導
59	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の知識は必ず必要。その中でも若年認知症の知識を持つ。 ・臨床心理カウンセラーの技術が必要。 ・ネットワークづくりの能力(1人で抱えこまないため) ・社会保障制度の達人であること。 ・うつ病の知識と対応の仕方の技術が必要
62	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の理解 ・センター方式活用の上で認知症のケアプランを作成 ・センター方式のシートは入所(ショートステイ含む)、デイでも活用できるように提供していく。
64	疾病の理解、症状に応じた対応の仕方。家族、近所や地域の人達をどれだけ巻き込んで協力を得られるか又理解してもらえるのか等、広い視野が必要と考えます。
65	認知症についてのより正しい理解。寄り添う心。ケースワークの原則を踏まえた援助
66	<p>積極的に認知症に対する研修に参加し、センター方式などを活用してその人のあり方や思いを大切にし、いかにして引き出す事が出来るか、そしてその人らしい日常生活をどのように工夫していけるかなど検討しながらケアプランを作成したい。</p> <p>普通の介護のサービス(点数)だけでなく、認知症対象者に対してサービス内容の充実を願っています。</p> <p>研修を土日の日中に受けたい。</p>
67	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の知識 ・人間対人間の心のふれあい、心理学的に知識を身につけ理解し、一緒に今の状態を維持し、助け合う技術が必要と思う。

【居宅介護】

若年認知症の方に対応するため、介護支援専門員として必要な知識や技術とはどのようなものだとお考えですか。

68	社会の中核、一家の柱であることが多い若年認知症の方々に対しては、同年代として考えにくい事ですが、ケアマネとして対人援助をする上で、必要な知識や技術についてはカウンセリングであると思います。
69	診断名により、その症状対応が全く異なります。ケアするスタッフがより研修を重ねられるよう、認知症の研修の機会を増やし、門戸を広げる必要があると思います。
70	早期診断、早期対応が重要ですが、原因疾患の医学的な知識を得て事例研究などを行い、個々の家庭に対応できる技術を習得することだと考えます。
71	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の知識 ・早期に専門医に連携できる力 ・家族にも認知症の知識を説明できる。 ・本人の状態を把握してじっくり関わる(他のサービスの人とも)
72	認知症に対しての知識、発病への治療すべての流れ(各認知症の種類別の対応方法、家族への関わり方)、センター方式を使つてのケアプラン作成法。
74	若年性だからという事ではなく、認知症という病気をよく理解する事は必要だと思います。本人にとって居心地のよい環境を提案(社会資源の活用)し、家族も安心して生活できればと考えています。
78	疾患、症状を理解しケアのポイントをつかむ。利用者の立場・思いに敏感になる感受性が必要。現在の状況だけでなく現在までの生活の経過を把握し個別的な支援ができる。
79	若年認知症の病態、治療の正しい知識。本人だけでなく家族も支えるケアマネジメント技術
81	第一に疾患の理解が重要。また専門機関をつなぐ役割を一番にしていく。
84	症状を熟知していること。大切なのは本人や家族との接し方だと思います。本音で話せる関係を構築しなければ対応が困難かと。
85	認知症(若年)本人のみならず取り巻く家族等の生活環境にも対応するため機関や人とのネットワークの拡充及び結びつきを強めるための知識が必要であると考えます。
86	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な“認知症とは”をきちんと知っておくこと。 ・面接、会話術 ・地域のサービスの把握
87	若年認知症に対する正しい知識。家族へのサポート力
90	今更の病気についてではなく、“老人”との違いなども多く思われる。その人の生活などを生かしつつ、インフォーマルの整備及びフォーマルの活性化も必要と思われる。そのためにも介護支援専門員(現行)だけでなく、その部分に特化した専門員資格の位置づけが必要とも感じます。
91	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の主症状・周辺症状をきちんと理解する。その上で本人、介護者・家族の不安や困りごとの相談に乗っていく。 ・その方らしい生活の継続を支援する為に、病状・症状の今後の推移を知る努力をする。 ・本人、家族の心の変化(対象喪失反応)に気配りできるようにカウンセリング技法を深めていく。 ・尊厳を保持した支援ができるように、常に自己の人間の成長に努める。
92	個別の視点(本人の生き方を知る)
93	若年認知症への専門知識はもちろんのこと、対人援助技術を高齢の方に比べてその人の生活・周囲の理解が必要であり、家族の方への説明を納得してもらうこと。本人の年齢に対する考慮が必要になると思います。安易にデイサービスの利用を勧めていくのもどうか、その人に適している施設であるのかどうか利用者を見る、サービス事業所を見る、そのためには知識、地域を知る必要がある。
94	若年認知症事例をあまり持っていないのでよくわかりません。ご本人の問題行動自体に対応するのではなく、その原因を洞察すること、ご本人の残存能力をできるだけ生かせるような生活上の提案をして

【居宅介護】

若年認知症の方に対応するため、介護支援専門員として必要な知識や技術とはどのようなのだとお考えですか。

	いくことでしょうか。
95	若年認知症の方の心理
97	・センター方式の修得と実践技術(センター方式が活用できず周囲に協力を求めても記入量が多く消極的な事もある) ・認知機能低下予防につながる知識
98	体験された事例等を聞き、勉強していきたい。
99	・認知症の方の病気の理解、個別的な対応の技術 ・家族との相談援助技術
101	・認知症介護について理解し、問題や悩みに答えられる知識が必要 ・本人にかかわりのある人達との連携 ・相談、援助技術
102	各自が研修を受けることが大切で、知識を持ちながら利用者に接することは必要だと思う。技術というのは知識の中から出てくるものだと考えるが、自分はできていない(研修したことを活かせることがよいと思うができていない)。
105	社会保障制度の知識。 認知症に関する医療面の知識。 認知症に関するケアの方法。 認知症の心の動きを感じとる。
111	医学的な知識。家族や本人への対応の仕方。そもそも若年性自体が少ないので、あまり経験がない。千差万別だと思うが、とりあえず医療的な知識は非常に少ないように思う。
112	家族を含めた心理的サポート体制。
113	まず再度「認知症」についての知識を深めること。その上で若年者への理解、知識を深める。対応力も身につけなければいけないと感じている。
114	・基礎的な疾患の理解と医療体制に関する知識。 ・権利擁護の視点。 ・社会資源の知識。 ・面接技術。 ・家族援助にかかる知識と技術。
115	若いために他の高齢の利用者と合わず、体力もあり、働き盛りであることによる周囲の家族の困惑に対応できる社会資源の必要な知識を持っていること。
116	ケアマネとして相談にのれる技術、カウンセリング能力。 知識は必要だが、事例を通して学ぶしか方法はないのではないかと考えている。 さまざまな場面での自分の対応を振り返り、記録に残し、次に生かす努力をする(事例検討をする)。
117	・講座や学習会、テキスト等で概論を学ぶ程度でわかった気になっているにすぎない。 ・ただし、利用者自身や家族のつらさを実感したところで、それを介護保険制度でどこまで担保し、個別性を尊重した生活支援の継続を図れるか、疑念を抱きつつ介入している。 ・明確な答えのない課題について社会資源を発掘し、仲介する気力が萎えないように知識や技術の修得は必要と考える。 ・知識・技術の修得の学習会(単発ではなく継続したもの)を県で主催してほしい。
118	病態と予後、進行度。現状の本人の評価をしっかりとる。若年認知症に対するネットワーク。対応方法。
119	例えば、私のように担当したことがない者でもケアできるように定期的な研修の参加、勉強に努め、スキルアップを図っていく必要がある。
121	・若年認知症の研修を初期～専門職種と申し込み順で受講できない場合が多いので、なるべく必須

【居宅介護】

若年認知症の方に対応するため、介護支援専門員として必要な知識や技術とはどのようなものだとお考えですか。

	<p>にして、受けていない人優先にして、市町村単位でも年2~3回研修してほしい。</p> <p>・認知症の方を支えられる「ゆったりとした心構え」が必要。若くして自分が自分でないようになってしまう「悲しみを受け入れられる感性」「いっしょに進行をみつめていける強さ」が必要だと思う。</p>
123	<p>・疾患の理解と疾患別ケア。一生懸命病氣と向き合おうとしている本人がいろいろ葛藤はありながらも信頼できる仲間と支え合い、症状に向き合っている。</p> <p>・環境をセッティングするためのネットワーク作り。</p> <p>・通所、ショートステイ、入所施設の特徴や地域のボランティア団体の情報を得ておく。</p> <p>・介護保険サービス、福祉サービスの習得。</p> <p>・本人、家族の思いに耳を傾けること。</p> <p>・若年認知症の方が県内や地域にどれくらい人数いるのか、統計を把握すること、そして事例(支援の方法)を学ぶことが必要だと思う。</p> <p>・認知症の知識。</p> <p>・今生活している所で現存機能でできる役割を地域の方とともに確保していくためのコミュニティワーク(地域援助技術)。</p> <p>・医療的な知識、本人や家族に対する援助技術、各種ネットワーク、まだまだ足りないのであり、少しずつの積み重ねで身につけていきたいと思う。</p> <p>・基本的なところで、一人の方と接する姿勢は若年認知症の方に限って特別な事ではなく、少しでも安心して心を開いていただけるよう支援できるケアマネジャーでありたいと思う。</p>
125	<p>・若年認知症の症状、治療、看護、介護、知識。</p> <p>・成年後見制度。</p> <p>・若年認知症の方本人とのコミュニケーションの取り方。本人はどうしたいのか、どうしておきたいのか、今後についてなど確認していかなければならない。</p>
127	<p>医療、保険の知識とその人の年代でその人が必要としていることが可能になるための地域社会の仕組みを知り、その人に合った場所がどこにあるのかを探す情報量が必要だと思う。</p>
129	<p>認知症の人と関わり方、家族への援助の技術。</p>
130	<p>若年認知症についての理解、面接技法、サービス事業所の情報</p>
131	<p>若年認知症の抱える問題を知る。(家族会や事例検討)</p>
132	<p>進行に対応できる知識を得たいと思う。</p>
133	<p>早期発見、早期治療できるよう症状への理解、症状に合わせた個別のケア等知っておくことが必要だと思う。また本人が孤立しないよう仲間づくりとその家族、利用者と配偶者、そして子どもへの心のケアが必要だと感じる。</p>
134	<p>・ネットワークづくりと活用方法。</p> <p>・介護者や地域への周知方法(個人情報や関係性の問題がある)。</p> <p>・介護サービス事業者への理解をいただく。</p> <p>上記3点が円滑に行なわれたとしても、その方の症状により、支援しきれないこともあると考えられる。</p>
135	<p>・家族への支援</p> <p>・認知症(アルツハイマー、脳血管性等)病氣に対する接し方</p> <p>・病氣を見る目</p> <p>・本人の過去の生活歴</p>
136	<p>・相談できる専門機関(医師、看護師)</p> <p>・制度を理解</p> <p>・疾患の理解</p> <p>・本人・家族の話聞く時間、余裕。</p>
137	<p>・その人の持つ力を役立たせるためのプランづくり。</p>

【居宅介護】

若年認知症の方に対応するため、介護支援専門員として必要な知識や技術とはどのようなものだとお考えですか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・体調管理。 ・各関係機関との連携。
138	<p>・若年でなくても重度の認知症のケースで明らかに介護負担がありながら、周囲がサービスの利用の必要性を感じていても、主介護者の強い思いからどうしてもサービス利用につながらず、ケアマネとしてどう関わっていいのかわからず悶々としているケースがある。研修会等で一般的な知識を学ぶ機会はあるが、目の前の利用者に関わるのか具体的な手法や相談ができる地域のネットワークがほしい。</p> <p>・これから様々な状況を持った利用者が増えてくるだろうと思うので、正に認知症に特化した形でのサービス、サービス事業所、情報、経験の蓄積が必要と思う。その人がその人らしく過ごしても支えられるくらいの人的な体制も必要。</p>
139	認知症の方すべてに共通することは、当然ながら若い認知症の方は特に人としてその存在を重視し、人格尊重、傷つけることがないよう、話し方・態度等気をつけていく必要があると考えている。
140	心理学、援助技術の習得
141	若年認知症の方の自立支援につながるケアプランの考え方。 若年認知症が進行して末期状態になったときの接し方の知識(家族も含む)。
142	<ul style="list-style-type: none"> ・一人の人間として尊重する。 ・相手の立場に立ってものを考える。 ・本人の気持ち、思いを聞き取る力。
143	<ul style="list-style-type: none"> ・医学上の知識 ・本人を理解する能力
145	若年認知症に対する専門の知識と専門ケア
146	認知症に対する知識。対応の仕方。地域のネットワーク。
148	家族に対するの援助方法、精神的なフォロー
149	会話、毎日の暮らし方、病状の特性
150	幅広い知識と技術が求められる。
151	若年認知症に対する全般的な知識がない(少ない)ため、今後も学習が必要と考える。
152	疾病に関する情報、理解、ケースの紹介での勉強会等に参加。
153	疾患に対する知識はもちろん、本人の生活歴や職業も含めたバックボーンも考慮しながら、本当に個別的な関わりが必要だと思った。利用するサービスも、本人・家族にあったケアを頼める事業所を探すことも今更ながら大切だと思った。
154	<ul style="list-style-type: none"> ・若年認知症の病気全般の知識 ・若年認知症の本人・家族が抱える生活全体の悩み ・若年認知症の方を支える社会保障制度全体 ・若年認知症の方との対応方法 等
155	<ul style="list-style-type: none"> ・若年認知症に対する基本的知識 ・医療と福祉サービスが連携をもって対応できるようにする体制を作る技術 ・医療や福祉サービスの情報をもつこと
156	<ul style="list-style-type: none"> ・若年者(40～65歳)の生きてきた時代背景、流行、思想などを知っておくことが必要であると思う。 ・若年のうちから認知症を正確に理解してもらえよう啓発することが必要である。
157	地域包括支援センター区域内で具体的な連携ができるようモデルケース等紹介してほしい。
158	早期発見、早期治療で、最期まで人間らしく生活する。特に関わりが大切である。
161	<ul style="list-style-type: none"> ・若年認知症に対する具体的な知識(若年認知症の理解) ・家族に対するケア 若年認知症家族会の情報収集(薬物療法 副作用について)
162	その方のそれまでの生活や背景、役割、地位など充分に知る必要があると思う。

【居宅介護】

若年認知症の方に対応するため、介護支援専門員として必要な知識や技術とはどのようなものだとお考えですか。

163	認知症に関する知識 本人や家族を精神面で支える知識・技術 社会保障や公的扶助に関する知識
164	認知症という病気に対する知識をもつこと、本人の人権が尊重され、安心して在宅で過ごしていただけるよう、また家族の不安や介護負担が軽減されるよう助言をしたり、サービスをコーディネートできるような技術が必要。
166	・若年認知症の病態、生理、症状、治療、経過。 ・若年認知症を発病した人との接し方。 ・専門職や看護職とのネットワーク作りの技術。
168	社会的にも家族の中でも責任のある立場の方が発症された場合は、特に本人や家族のとまどいや不安を理解し、一緒に解決していくことが重要になってくると思う。若年性認知症の病気についての知識と対応する医療・介護施設についての情報が必要だと思う。
169	認知症に対する正確な理解と共感。 支援体制を固められるネットワークを構築する能力。
170	認知症の原因となった疾患の特徴や症状の知識の修得、相談援助の専門的な技術が必要だと思う。
171	本人が一番不安と動揺を感じていて、対象者の方を理解し、安心感を得ていただける待遇技術。 公的、非公的な各サービスの情報網を把握し、家族が必要とするサービスを提供できるよう留意している。
173	どのようなサービスが本人の症状を悪化させず、また安心を与えることができるのか、学んでいくことが必要であると思う。また、家族へのサポートの仕方も学んで行く必要があると思う。 専門的なサービス事業所の把握、ネットワークづくりも必要であると思う。
174	・認知症の表れ方が一人一人違うのでいろいろの角度から分析して対応について検討していく必要がある。そのためには、いろいろなケースについての研修の機会とともに、実際にケースを持って経験を深め、サービス提供先にもアドバイスができる知識を深めていく。 ・若年認知症の方の思いがけない行動に驚いて騒ぎ立てるのではなく、どのようなときに落ち着くのか等情報を集めて、どのようなサービス提供先でも同じように刺激を少なくした対応ができるように情報を提供する。
175	若年認知症そのものの学習や、家族の思いにどう対応するのか、どのような支援と連携が可能か。
176	必要なサービス機関、医療機関を把握する。 認知症の方の思いを理解する技術。
177	病気に対する新しい知識も必要だが、サービスについて、どこにどのような施設があるかできるだけ多くの情報も必要と考える。 また、ケアマネ認知症の方をどのように捉えるかによって、対応の仕方も決まってくると思う。 自分と同じように生活を持ち、楽しんだり、悲しんだりしながら生きたいと思っている一人の人間として、接していくことが大切と考える。
179	若年認知症の方と接する機会を持ってから勉強し、ケアプランを持った方がよい。家族も不安な中にいるので、ケアマネも初めてでは十分なサポートができないと、共倒れになると思う。
180	現在まで相談はないが、包括支援センターと相談しながら、サービスを調整していきたいが、認知症の研修案内があれば、参加研修していかないと、と考えている。
181	相手を思いやる心と、信頼関係だと思っている。
182	若年認知症との関わりはないが、人の集まりの中で過ごすことが必要な方（閉じこもり予防）もあると思う。超高齢者とのデイサービスに参加を呼びかけることは難しいと思うので、いろいろの年齢層が集うことを設定する必要があると思う。ほとんどがボランティア参加になると思うが、弱者を自立させるには誰もが見返りを求めない活動ができる社会を作ることと考える。

【居宅介護】

若年認知症の方に対応するため、介護支援専門員として必要な知識や技術とはどのようなものだとお考えですか。

183	若年性と高齢者の認知症は違うことはわかるが、症状、対応等について研修したい。
184	アセスメント様式の統一
185	まだまだ認知症は高齢者だけのものと思っているが、最近クローズアップされるようになり、若い世代にもあることがわかってきた。本人の苦しみや一番近い周りの方への心の支えになるには、若年認知症専門の医療機関の講習・研修を多く、広く受け入れていただけたらと思う。
186	現在対象の方はいないが、今後若年認知症の方への理解・対応の仕方を学びたい。 また、家族も高齢の方への対応とは違い、受け止められない、理解できない部分も多分にあると思う。 そんな中、家族への関わり方も学びたい。 若年認知症の方が安心して生活できる場とは？地域・施設・家族等ネットワークのはり方を学びたい。 地域への啓発も必要だと思う。
187	<ul style="list-style-type: none"> ・特定疾病の指定から利用可能な公的サービス ・経済的負担の軽減が図れる各制度 ・地域で支えあうようなインフォーマルなサービス ・若年認知症の利用者を正しく理解し、行き届いたケアを提供するサービス機関(事業所などの情報) ・障害者施設での勉強 ・社会福祉援助技術を身につける。 ・精神保険の勉強をする ・若年認知症の臨床症状の特徴を理解し、地域や技術を個別的に知る ・家族(介護者)介護力および介護の限界を推察し、適切な援助技法につなげるアセスメント能力
192	サービスの種類、地域の受け入れ状況を知っておく。 高齢者が多いサービス(デイやショートなど)を利用しなければならないときの本人の気持ちや家族の思いと介護負担とのバランスをどう判断していくか。
193	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いをききとる力(カウンセリングの力) ・利用者が生きてきた背景を知り、価値観を共有するための知識 ・利用者と提供者に信頼関係をつくり上げるための援助力
194	認知症に対する正確な知識と対人援助技術の必要であると思う。本人は認知症への不安や恐怖感等があり、そのことについて正確に答えられる知識が必要で、同時に信頼関係を構築していくことも重要であり、臨機応変に対応できるようにするためにも、対人援助の技術も取得する必要がある。
195	ネットワークを使い、周囲に理解を得て協力してもらえらる技術、若年認知症への対応の方法・知識等
197	ケアマネ自身も心の奥底に偏見を持っている可能性もある。 人間の尊厳を常に学ぶ必要があると思う。
198	デイサービスなど利用している事業所からの情報を集約して、症状によって、より専門性の高い認知症の専門機関へつなげられること。 それによって症状に対する家族の不安や納得が得られるような知識。
203	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の進行、病気に対する家族支援などの知識 ・面接技術
204	医学的診断を知る。本人の精神的ケアの方法。
205	<ul style="list-style-type: none"> ・若年認知症の方の現在の対応(医療機関) ・若年認知症の方の対応の仕方(家族含む) ・若年認知症の方のサービスの受け入れ先
206	若くして認知症になった方への理解とともに、家族が病気を理解できるように助言できる知識を持つこと。地域に気兼ねなく通える施設等の情報収集。
207	若年認知症に対する専門的知識が必要。